二〇二五年九月二七日

コンテストなれば案山子もポーズとり　明日香
蒼穹に溶け入るやうに秋の蝶　あひる
帆船を橙に染め秋日落つ　あきこ
赤とんぼよけて飛び石はみ出しぬ　なつき
ゴールまでママと一緒に運動会　康子
赤とんぼ吾の自転車と伴走す　むべ

二〇二五年九月二六日

早生奥手パッチワークの稲田かな　わたる
父母墓前額づきをれば秋の声　むべ
草紅葉綴る湖畔を逍遥す　澄子
濯ぎもの干すや頭に秋茜　やよい

二〇二五年九月二五日

秋風や病む身励まし吟行へ　康子
花茶屋に手桶をかへす秋彼岸　むべ
山頂を撫でて越えゆく秋の雲　和繁

二〇二五年九月二四日

帯なして対岸に燃ゆ曼珠沙華　康子
家鳩のくぐもる声に秋憂ふ　せいじ
野地蔵の膝をくすぐる猫じやらし　明日香

二〇二五年九月二三日

遠山へ綾なす雲や鳥渡る　山椒
仰ぎ見る楡の大樹の天高し　せつ子
寧かれと陸墓に紅さす百日紅　ぽんこ

二〇二五年九月二二日

ダム湖いま色なき風の吹き渡り　千鶴

二〇二五年九月二一日

秋茄子をきゆきゆと泣かせて夕支度　たか子
草の花活けて客待つ山家かな　澄子
畳々と墨絵めきたる野分雲　むべ
家族みな思ひ思ひに長き夜　もとこ

毎日句会みのる選・二〇二五年九月三〇日